



暑すぎず寒すぎず、まだ蚊もいない。最高の季節になりました。皆さまはどのように連休を過ごされたでしょうか。毎年のことですが、連休前後は田植え準備の真っ最中。今年はお天気にも恵まれて準備が順調にすすみ、予定通り田植えが終わりました～！！それにしても、先月のお米を発送した後に種を蒔き、苗を育てて、田んぼの準備をして、田植え。それが全て1ヶ月内に起こるので、目が回りそうでした。

「播種機（はしゅき）」という種まきの機械は、苗箱にまんべんなく種を蒔いて、覆土までしてくれます。種と土と水が途切れないように投入し、できあがった苗箱をビニールハウスに運んできっちり並べます。保温・保湿のために銀色のシートを被せて待つこと約1週間。芽が出て約6、7センチくらいになったらシートをはがし、田植えまで毎日、枯れないように水やりをします。三男が「ねえねえ僕にも水をかけてよ」というので、かけてあげました（笑）。ビニールハウスの中は汗だくになるほどの暑さですから、気持ちいいのでし



ょう。苗同様、大きくなりそうです。苗が大きくなりすぎると、風や田んぼに浮く草で倒されてしまうので、ちょうどよい大きさになったらハウスから田んぼに運びます。約900箱。遊びに来ていたアメリカ人の友達が手伝ってくれました。



田んぼでは、水が溜められるように「畦（あぜ）」をつくり、肥料をまき、耕してから、水を入れて土と混ぜること2回。代掻き（しろかき）と呼ばれる作業です。代掻きでしっかり雑草をすきこみ、平らにしておかないと後々まで影響が残るそうで、これは耕太の担当。堆肥を撒くところから田植えまで、約2か月間ずっと機械に乗っている耕太は、田植えが終わって一番ホッとしているはずですよ。

苗と田んぼの準備が整ったらいよいよ田植え。田植え機に苗を積み、6条ずつ植えていきます。何度見てもほれほれする仕事ぶり。今年も苗も代掻きも上出来だったので、「田植えもやりやすかった」と会心の笑みを浮かべる耕太。11年目にして、納得のいく田植えができたようです。とはいえ、我が家の周辺には小さい田んぼや形の悪い田んぼがたくさん



んあるので、機械では作業ができない場所もあります。



そういうところは私や研修生や子供たちの担当。クワやスコップで畦塗りをしたり代掻きをしたり。そうすると、こんな顔になるわけです (^v^ )

ビニールハウスから苗を出したら、すかさずそこに牧草ロールを運び入れます。今年はしっかり乾燥した牧草を雨が降る前にハウスに運べたので、牛もきっと喜んでくれるはず。こちらの作業も、アメリカ人の友人が大活躍でした。ビッグサイズのアメリカ人が畑にいるとそれだけで絵になる気がするのですが、偏見でしょうか！？



さて、農作業の話題だけでも盛りだくさんですが、先月のローマ報告もさせて下さい。阿蘇が「世界農業遺産」の認定を目指して動き始めてからちょうど丸1年。今月末に認定を決める国際会議が開かれるとのことで、それに先立って副知事さんらと一緒にローマにある国連食糧農業機構 (FAO) へ行ってきました。FAO という機関は、私の祖父が50年ほど前に働いていたところ。建物は当時のままだそうで、窓からの眺めも半世紀前とあまり変わっていない感じ。そのFAOに祖母の着物で行くなんて...！と個人的にはとても感慨深いものがありました。

私は、阿蘇に住む農家として、これからもこの景観や文化を守っていきたいという意気込みを英語でスピーチ。他にも候補となっている地域から代表団が来ていたのですが、阿蘇チームのプレゼンテーションは、最高の評価を受けることができました。ただし認定されるかどうかはまだ分かりません。今月末に石川県の能登で開かれる国際会議にも行ってきますので、来月の通信で結果と共にご報告しますね。



忙しい毎日ではありますが、1日の作業が終わった時にこんな風景を見ると、ここで仕事ができることの幸せを感じています。田んぼに水を入れた瞬間からはじまる水の管理。植えた瞬間からはじまる雑草との闘い。これから収穫までの4ヶ月には様々な仕事やできごとが待っていますが、ひとまず無事に田植えが終わったことが最大の報告。機会がありましたら、田んぼの様子を見にいらしてくださいね。どうぞお元気で。

